

平成28年度

学校関係者評価結果報告書

学校法人東京安達学園 名古屋
専門学校名古屋スクール・オブ・ビジネス

はじめに

昨年度の自己点検・自己評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会が調査・分析し以下の通り、「平成28年度 学校関係者評価 結果報告」をまとめました。

各学科に関する関係者及び地域の方にも多数委員会にご参加をいただき多くのご意見を頂戴致しました。この取り組みにご協力をいただきましたことを感謝いたしますとともに、本報告書をより良き学校運営のための一助として活用し、今後もさらなる発展をしていくことをお約束いたします。

平成29年8月

学校法人東京安達学園 名古屋

専門学校名古屋スクール・オブ・ビジネス

学校長 鈴木 寿也

(1) 教育理念・目標

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(1)- 1 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	本校の教育理念・方針は、学則に基づき、学園理事長、学校長、学務長によって定められている。また、「魅力ある学校づくり」を目指し、3カ年計画のもと、目標・方針を明確にし、計画的に実行している。	・教育理念・方針を踏まえながら実行できていると思います。
(1)- 2 学校における職業教育の特色は何か	4	業界・企業とのパートナーシップのもと、業界・企業から求められる人材について分析し、特に社会人基礎力を高める教育を重視してきた。職業実践専門課程認定校として、H28度についても産学連携の教育イベント・社会貢献活動を強化した。	・社会人基礎力を高める教育としては、評価できる取り組みがなされていたと思います。・卒業後、即戦力として期待できる。
(1)- 3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	校長及び学科長が作成した3カ年計画により、魅力ある学校づくりに努めている。その目標を教職員全員で共有し、共通意識を高め、今後も企業から有用とされる人材育成に努める。	・学科内での情報共有がなされているため、人材育成において十分な成果が感じられる。
(1)- 4 学校の理念・目的・育成人材像特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	学生に対しては、新入生オリエンテーション、新入生合宿等で延べ20時間かけ、学校の理念・目的・育成人材像などを周知させている。保護者会をH28年4/9に実習室等の見学を含めて実施、新入生の約66%の保護者に出席いただいた。アンケートに「学校方針がよく理解できた」「メンタルヘルスを家庭でも活かしたい」等おおむねご理解いただいた。	・卒業生の次世代へも繋げるようになると思います。・保護者会の出席率が上がっており、成果が感じられます。・昨年度の61%より5%増加している。現状に満足せず、さらに増加することを期待します。
(1)- 5 各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	新年度学科計画を立てる際、学科長及びコース長が業界リサーチを行っている。H28度についても、教育課程編成委員会でご意見をお伺いし、企業連携科目を中心に、各業界企業のニーズを反映、実施した。	・教える側の情報収集が課題。

今後に向けての学校の考え

職業実践専門課程認定校として、業界・企業から求められる人材の育成に努めるとともに、インターンシップの機会を増やすことにより、実践的な学びを充実させていきます。また、教育イベント・社会貢献活動の強化につとめるとともに、保護者も含めた関係者の方々への理解と連携を深めるための活動を今後も継続し、各方面の方々より指示される魅力ある学校づくりを目指します。更に総合校のメリットを生かし、多彩な分野出身の教職員が持つ知識と経験から学生とフェイストゥフェイスで社会人基礎力を習得できる取り組みを推進します。また今後は学園グループのネットワークを活かして東京や大阪との職員の交流を図り相互のノウハウを共有します。

(2) 学校運営

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(2)- 1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	学則に定められている学校目的、またそれを達成するための教育方針に基づき、単年ごとの運営方針を学園理事長・校長・学務責任者を中心に策定している。	・特になし。
(2)- 2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	上記運営方針のもと、毎年事業計画書を予算計画と連動して作成し、計画に沿って実施している。	・特になし。
(2)- 3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか有効に機能しているか	4	意思決定については学園理事会、議決機関として姉妹校4校の学校長・学園事務局長を中心とした運営会議、学務責任者会議を実施。さらに毎週定例学務ミーティングを実施し、本校教職員全員で学校運営に関する情報を共有し、役務分掌のもと、組織的に課題への取り組んでいる。	・情報共有が全体になされていることが感じ取れます。
(2)- 4 人事、給与に関する規定等は整備されているか	3	人事に関しては長期的、かつ年代のバランス、また次世代を見据えて考慮する必要がある。また、教職員の評価を適正に行い実績に応じて給与や昇進へ反映することで、教職員のモチベーションアップを図る仕組みを再構築する必要がある。現在、学園本部を中心に業務内容に伴う人事考課査定が再検討されている。	・営利団体と違い、査定方法が曖昧になりがちです。しっかりとした人事考課査定表の作成が必要です。場合によっては自主査定も検討すべきです。・センシティブな内容だと思いますが、より良くなることを期待します。・迅速な仕組み再構築を期待します。・生徒数とのバランスもあり、必ずしも給与に反映されないのでは。
(2)- 5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	各教職員の報連相を重視し、意思決定は学校長・学務責任者が中心で行う。また、教務(学務)室に事務長職を置き、事業計画に基づく予算編成の段階から精査・共有し、計画・実施している。	・特になし。
(2)- 6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	教職員が地域社会へのコンプライアンスの重要性を認識し、学生指導している。また、社会人教育の一環として、就職対策の授業などで業界に関するコンプライアンスを指導している。	・特になし。

(2)- 7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	学校のホームページで、基本方針や学科特徴、カリキュラムの一部、就職活動支援体制などを公開していた。現在、職業実践専門課程認定校の規定に基づき、学校概要/募集学科・募集定員/学生納付金・修学支援/組織図/自己評価報告書/学校関係者評価報告書/財務 及び「職業実践専門課程の基本情報」を公開している。	・WEBサイトの情報量・情報内容ともに充実していると思います。
(2)- 8 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	3	取得単位数・資格は成績システムで、学生の個人情報は学籍簿で管理。出席状況については各担任が把握、指導している。卒業以降の情報管理システムが不十分と認識している。新入生～卒業生一人ひとりの情報が一元管理できる学生情報管理システムの再構築を検討していきたい。学生～学務室情報通信システムnanetや「成績管理システム」を導入している。	・システムの再構築とともにシステムの運用方法についても検討してほしい。・成績管理システムが導入され、業務効率が上がったことは成果だと思います。卒業以降の管理システムの構築が進むことを期待しています。・効率化が進んでいるようです。現状使用しているシステムの改善や新たなシステムの導入もあると、さらに効率化が進むと思います。・卒業後の情報管理のシステムの確立は、重要な課題と考えます。

今後に向けての学校の考え

人事考課については、学園本部でも検討が進んでおり、各職員の役割をより明確化するとともに、計画的かつ適正に行われるようにしていきます。また、情報システムの一元化に関して、効率化を図るとともに、リスク管理に対しても万全を期してまいります。更に歴代の卒業生名簿を精査し卒業後の情報収集並びに学校からの卒業生に対する効果的な情報発信の在り方を検討してまいります。コンプライアンス等のチェック機能については全国会議で意見を述べて学園グループ全体で強化を図れるよう努めます。

(3) 教育活動

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見	
(3)-1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	カリキュラム、シラバス、資格検定対策、及び学科コース運営に関する目標や計画については、年度ごとに学科長・コース長が策定。学校長承認のもと、2年間で習得させる教科目を一覧にした「カリキュラム編成シート」を作成し、実施している。	・特になし。	
(3)-2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	職業実践専門課程認定校として、企業連携科目、産学連携による教育イベントを計画し、企業連携のもと、学生が業界現場を体験し、学べる環境づくりに力を入れた。		
(3)-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	全教員(専任・非常勤)が担当する全授業について「授業計画書」を授業期初に提出。毎回の授業実施内容を「授業報告書」に記入し、共有できるようにしている。また、授業期ごとに担当教員の総括・要望をとりまとめ、常に授業の質の向上や改善に努めている。		
(3)-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか	4	キャリア教育については、1年次からの「就職指導」に加えて、シニア産業カウンセラーを講師とした「キャリア実践学」を全学科に配置。自己分析のための棚卸しから各人の強みを文章化するとともに、グループワーク・ディスカッションを通じてコミュニケーション能力の向上を図っている。		・随所に工夫が見られ、良かったと感じています。
(3)-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	本校では「実践的な職業教育」を、連携している業界企業へのインターンシップ研修参加、及び企業から派遣された講師による学内での実践的実習授業ととらえている。また、教育課程編成委員会(各業界企業・団体所属の方々で構成)で関連分野の企業等よりご意見をいただき、カリキュラムに反映している。		・特になし。
(3)-6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4			・特になし。
(3)-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	年1回各科目について授業アンケートを実施。アンケート結果は、全専任教員にフィードバックし(非常勤には一部)、現状の把握と授業内容・学校運営の改善に努めている。		・とても良い取り組みを実践されていると思います。
(3)-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	各業界企業様からお話を伺い、専任教員が常駐する学務室へフィードバックしている。また、業界で活躍する卒業生の情報を、カリキュラムや教育イベント、ゼミなどに一部反映してきた。また、H29度カリキュラムについても、教育課程編成委員、学校関係者評価委員の方々からご意見をいただき反映した。		・取り組みはとても評価できると思います。
(3)-9 成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	「学則」および「学生心得・細則」(学生全員に配布する『学生便覧』に明記)に従い、厳正に行っている。『学生便覧』は、新年度開始時のオリエンテーションで学生に周知させるほか、保護者会でも配布、説明を行っている。		・学生に対してだけではなく、保護者への周知も取り組んでいることは、評価できると思います。

(3)-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	各学科でのカリキュラム編成シートに指導体制が明記されており、取得すべき資格・検定については、該当対策授業のほか、授業時間外で専任教員が対策ゼミを行ったり、質問に答えるなど、合格率アップのために指導している。また、年度ごとに取得実績を記録し、指導体制の強化、内容改善に努めている。	・特になし。
(3)-11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	現教員は、専任・非常勤含め、学科の教育目標や実施方針を遂行でき、現段階での業界レベルの指導ができると判断している。とくにキャリア形成系の教科目では、シニア産業カウンセラーを招き、社会人基礎力アップのための指導を強化している。	・特になし。
(3)-12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3	募集採用窓口である事務局との連携や、各学科コースでの授業・実習に必要な能力や求める人物像についての共有について一部課題があり、現場との意識の違いが見受けられた。また、引き継ぎ期間がほとんどもてない採用スケジュールについても課題であり、改善したい。	・人手不足の時代なので、よりしっかりとした採用計画が必要となる。・人材確保は難しい課題だと思います。引き継ぎに時間がないケースは想定されますので、引き継ぎマニュアルなど整備し、急なスケジュールでも対応できるようにしておくと思います。・現場と事務局が連携を密にするための課題の解消をお願いします。・将来を見据えた戦略的な採用計画の必要性を感じます。緻密かつ迅速に対応できるよう、事務局との十分な連携をお願いいたします。・特に本学と言う事ではありませんが、現場をドロップアウトした方、卒業生の方が多くみられ、生徒指導に課題がある。
(3)-13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	3	H28度は職業実践専門課程認定の要件をクリアするレベルは実施した。変化する業界ニーズへの対応、指導力の向上等について、教員一人ひとりの能力を評価分析し、次年度以降より体系的に研修させていきたい。	・昨今は全般的に精神的に弱い人材が多く、メンタルトレーニングの検討も視野に入れてほしい。・変化する業界ニーズにいち早く対応できているか、外部企業・業界企業と連携し定期的に確認しながら、質の向上に取り組んで頂きたい。・先生方の指導力の向上は、学生たちに即影響してくるはずです。先生方の研修方法の体系化をお願いします。・ビジネス環境への対応は必須なため、積極的な先端的知識の習得取組が必要と考えます。
(3)-14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	学生の気質の変化等、以前よりも仕事量が多くなっているため、研修の時間が充分に取りづらい現状もある。業界企業とも連携させていただき、効果的かつ効率的な取り組みに努めたい。	・異業種の方々との面談だけでも研修効果はあると思います。・学園全体で職責や能力等に合わせた学内研修が体系化されると良いと思います。・現状で満足せずに、更なる高見を目指してください。・個人での能力向上はもちろんのこと、学校全体での指導能力向上に対する取り組みが必要と考えます。

今後に向けての学校の考え

各学科におけるカリキュラムについて、教育課程編成委員、各分野の企業の方々のご意見を反映し、専門的なスキル向上を目指すとともに、キャリア教育、実践的職業教育、インターンシップを通して、今後も社会人基礎力の強化を行い、人間力の強化に取り組みます。インターンシップにおいては、企業様と学校との間での学生情報の共有や終了後の課題や成果をフィードバックする仕組みづくりに取り組みます。更に業界で活躍した人材を職員として採用し、担任とし、就職担当との連携を図ります。職員研修については、継続して計画的に企業連携のもと業界の現状にマッチした技術・能力の養成及びインストラクションスキルの向上をめざし実施します。

(4) 学修成果

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(4)-1 就職率の向上がはかられているか	4	H27度→H28度就職率(求職者に対する)は、100%→100%を維持し、求職者全員が就職内定を達成した。業界出身の担任と就職指導担当教員(求人開拓担当)が、学生一人ひとりをサポートする体制を確立、就職支援カリキュラムも体系的に実施している。卒業生に対する求職率97.6%、卒業生に対する内定率97.6%、求職者に対する内定率100%、内定者のうち業界内定率90.9%)	・卒業生に対する求職率が97.6%ということでは2.4%は就職しないということでしょうか。どのような理由で就職しないのでしょうか。・素晴らしい実績です。業界内定率が少し下がったところが気になります。・大変素晴らしいと思います。今後も継続をお願いします。
(4)-2 資格取得率の向上がはかられているか	3	各学科で合格率アップのための施策を取り、一般的には全国平均レベルを上回ったが、一部の学科において資格検定対策への対策が充分でなく、全国平均合格率を下回った。H29度は、放課後の個別対応ゼミ、計画的なゼミなど専門講師を招き合格率向上を目指す。	・具体的にどの学科のどの資格が何%下回っているのでしょうか。・合格率向上という曖昧な表現ではなく、合格率の数値化目標を掲げてはいかがでしょうか。・向上されることを期待します。・全国トップを目指して、先生方の更なる努力をお願いします。・全国平均以下の資格検定については、合格率向上の対策を期待します。・採用されている資格を精査する必要があると思います。
(4)-3 退学率の低減が図られているか	4	H28度の入学者に対する卒業率は、目標数値85%を達成した。担任が学生の遅刻欠席を管理することで、学生の変化を把握。また、半期ごとに学生向けメンタルヘルスセミナーを実施し、「なんでも相談室」のスクールカウンセラー(臨床心理士)との連携強化を図っている。また、ドロップアウト担当を置き、過去の退学理由などを精査し、共有・対策を取っている。	・具体的な数値はありますか？昨年度は90.7%だったと思いますが、今年度はいかがでしたでしょうか。・打たれ弱い学生のフォロー。
(4)-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	求人開拓担当が企業からお聞きした情報や、学務室を訪れる卒業生からの情報は豊富ではあるが、断片的でまだまだ全般を把握できているとは言えない。卒業生の動向について、校友会やSNS等を利用し、学務室と学校広報担当がタイアップして把握できる仕組みを検討したい。また、卒業生の評価について業界・企業からよくない評価・ご意見等があった場合には、すみやかに指導及び教育内容の改善を実施していきたい。	・当面は同窓会開催他で卒業生の情報入手の方法を模索するしかない。・引き続き情報収集を行ってください。・同窓会をもう少し活用すると把握範囲が広がると思います。・SNS等の積極的利用により、効率的な情報収集の取り組みを検討して頂きたい。・社会人としての自覚(=結果を出す。成果にこだわる)を持った人材に育成してほしい。中堅中小企業に就職する学生であればなおさら。求人は多いと聞くと、好景気感の下りてきていないという実感がある。
(4)-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	H28年3月24日に学園校友会主催の本校同窓会を開催し、176名が参加。卒業生のうち約3,800名に案内し、385名から近況について返信があった。	・これに関しても卒業生のより多くの情報入手が責務である。・卒業生のキャリア形成は在校生の目標になりうるものだと思います。1人でも多くキャリア形成の把握をお願いし、教育活動に生かしてください。・『目標はあるが、夢が無い。』・仕事に関して「こうなりたい」という夢を持ってもらいたい。そういったモチベーションがないと社会人として成長していかないと、会社に貢献できない。SNSの影響か、冷めた学生がいるのか気になる。・卒業生とのコミュニケーションを定期的にする仕組みはありますか？

今後に向けての学校の考え

本校の教育理念でもある「辞めない学校・就職する学校」のもと、今後も就職支援・学生継続率向上対策等、サポートの内容・体制の充実強化を図るとともに、学生と保護者の方々に対し、安心していただける学校づくりに努めてまいります。資格についてはオリエンテーション等を通じて早い段階で資格試験の重要性を伝えることで資格取得に向けたモチベーションの向上を図り取得率の向上につなげます。資格取得率の具体的な数値については開示する方向で検討致します。卒業生の追跡については就職先企業の担当者との連携を図り、名刺を収集するような活動を検討致します。IT学科長や事務長と卒業生ネットワークの構築についても進めてまいります。

(5) 学生支援

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(5)- 1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	進路就職支援については、学科担任と就職指導(企業まわり渉外)担当が、学生一人ひとりをサポートする体制を確立。就職支援カリキュラムを充実させている。 担任が欠席管理や個別面談で、気軽に相談でき、対応しやすい環境を作っている。また専任教員のみならず、非常勤教員が授業で感じた学生の様子を学務室にフィードバックしてもらえる風土ができている。	・大変よい体制が根付いているようで安心しました。良い環境、良い関係が確立しているので、ぜひ継続してほしい。
(5)- 2 学生相談に関する体制は整備されているか	4	学科担任との面談に加え、学生の精神的な悩みについては、学園に「なんでも相談室」があり、スクールカウンセラー(臨床心理士)が予約制で相談業務を行っている。担任や保護者が指導アドバイスをもらう体制もできている。	・スクールカウンセラーと担任が情報共有していることはとても良いことだと思います。・「そもそも必要があるのか。」育成よりも辞めさせない方向になりがちに。
(5)- 3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	入学前の特待生制度、入学時の日本学生支援機構奨学金申請説明会、進級時の学園校友会奨学金(経済支援)制度等がある。学費の分納や日本学生支援機構奨学金の緊急申請についても、状況に応じて担任から学園事務局に依頼し、対応している。	・入学前の高校生に対しての周知をもっと行くと、学生募集につながると思います。・給付型奨学金。
(5)- 4 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	毎年4月に校医のもと学生全員の定期健康診断を実施。また、担任が遅刻欠席の管理を徹底し、個々の学生の心身健康状況把握に努めている。また、年2回学生の状況に合わせたメンタルヘルスセミナーを実施し、臨床心理士との連携を強化している。学園「なんでも相談室」では希望者が予約制でカウンセリング、担任が予約、リファーすることもある。	・特になし。
(5)- 5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	H28年度は、スポーツ大会(愛知県体育館)、学園4校合同学園祭を実施した。今後も学生主体で課外活動を進める機会を増やしていく。また、産学連携での社会貢献活動などを引き続き強化していく。	・課外活動はメリハリがついて良い取り組みだと思います。
(5)- 6 学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	遠隔地出身者に対しては、学校側が適正と認める業者(学生寮・学生マンション・アパート等紹介)を厳選し、勧めている。学生が安全で衛生的かつ快適な生活環境を確保できるよう支援するとともに、学生が健全に生活できているかどうか、担任が把握するよう努めている。	・私生活まで把握するのは大変だと思いますが、今後もお願いします。
(5)- 7 保護者と適切に連携しているか	4	進路・就職への支援など、学生の個別面談等で出てきた課題については、担任が必要に応じ保護者へ連絡。学校と家庭が協力して学生のサポートにあたっている。	・とても重要な活動です。保護者が味方につけば百人力ではないでしょうか。

(5)- 8	卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生からの相談については、発生ベースで担任や就職指導担当が電話や来訪面談など個別で対応してきたが、組織的な対応が望まれる。また創立32年、7,000名超の本校卒業生全体への支援体制については、学園校友会やSNSを利用したネットワークなど、実質的で有効な方法を検討していきたい。 H28年3月24日に本校校友会同窓会を開催した。卒業生名簿を整備し、約3,800名に案内。385名から近況について返信があった。当日は176名が参加、現旧教職員、連携企業、同窓生が交流した。	・卒業生同士が交流できるような環境を作ってほしい。それが支援の一端となると思います。 ・卒業後のサポートもアピールできると、学校の特長になりますので、組織的な対応を期待しています。 ・卒業生の活躍は、学校の財産だと思います。より密な関係が継続できる取り組みを期待いたします。 ・卒業生とのつながり強化のため、組織的な支援強化が必要と考えます。
(5)- 9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	1	本校学生の社会人基礎力向上のための教育環境は整備されているが、生涯学習の観点で、地域の社会人が働きながら学べる教育環境は整えられていない。社会人ニーズを踏まえた教育環境(特に一般の方々を対象とする生涯教育)について、本校でどんなことが可能か社会貢献も含めて継続して検討していきたい。	・社会人といっても大卒の人もいれば、高卒の人もいます。それぞれ求めるニーズは異なると思います。基本ベースは通常学生と同じから始めたらいいと思います。 ・前進することを期待しています。 ・地域社会との連携は大変重要な課題だと思います。学生の将来を考えても十分な検討が必要だと思います。 ・社会また地域に対する教育の場として、本校の関わりを模索することが必要と思います。社会人ニーズの把握は急務な課題であると考えます。 ・分野にもよるが、通信制の検討も。
(5)- 10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	学校広報担当者を中心に、地域の高校に出向いて複数回職業ガイダンスや講座を実施したが、専門教員が出向くことは物理的に難しかった。依頼のあった高校の職業ガイダンス、就職対策講座などには、H29度も継続して積極的に実施していく。	・当面は、依頼してもらえない学校数を増やし、実績を重ねていく必要があります。 ・専門教員が出向いていないのは、学校にとってマイナスだと思います。お忙しいとは損いますが、学校の魅力を伝えるためにも、出向く方法を検討してみてもどうでしょうか。

今後に向けての学校の考え

社会のニーズを的確にとらえ、教育環境の整備に取り組んでいきたいが、職員の仕事量が増す中で目に見える取り組みが図れていないと認識しています。業務の効率化やシステム化を図り改善に向けた取り組みを検討してまいります。奨学金については、現行の説明会を通じて具体的な返済イメージや延滞への注意喚起を強く意識づけ、ホームページにログインすることで個人の返済状況が把握できるシステムの利用促進を図ります。また社会人教育に関しては一法人として学園本部の意向を確認の上、有料・無料、夜間・土日、職員の勤務実態等を総合的に勘案して、その方向性について次年度に報告させていただきます。

(6) 教育環境

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	自己評価	具体的な取り組み・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(6)- 1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	業界企業とのパートナーシップをもとに、毎年度設備計画を作成し、分野に即した実践的実習授業を実施するための環境整備に努めている。施設・設備全般を平面図や備品台帳、教室稼働表などで管理、必要に応じて学生に開放できる体制を整えている。H27度はエアコン更新、トリミング実習室加圧ポンプ設置、教室・実習室の椅子取替・増設、実習室の改装等を実施。安全性・利便性・清潔感の向上に努めている。	・施設・設備の充実は学校の魅力の一つです。使用状況も含め、良い取り組みになっていると思います。今後も計画的に魅力アップに努めてください。
(6)- 2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	H27度2月のアメリカ・ロスアンジェルス研修に引き続き、H28度も2月にヨーロッパ研修を実施した。学科の特性に合わせた研修プログラムを実施し、参加学生の満足度は高かったが、参加率の改善を図りたい。H29度はアメリカ・ロスアンジェルス研修を検討。内容や料金設定を勘案し、参加を促進していく。	・海外研修ばかり目立っていて、学内外の実習施設、インターンシップについては進捗が余りない。これこそ卒業生の有志に相談したらと思います。・良い取り組みだと思います。なるべく全員が参加できるような研修案をお願いします。・参加率改善のための対策検討をお願いいたします。・プロダクツを認知するのはロスアンジェルス、夢を感じるのはニューヨーク。
(6)- 3	防災に対する体制は整備されているか	4	耐震チェックと改修工事は完了しているが、備品の確保や災害時の緊急対応への整備が充分とはいえない。期初には災害対策マニュアルを学生・教員に配布。H28度より避難訓練を実施している。	・避難訓練の実施はとてもよかったと思います。学生の安全確保のため、今後も更なる対策をお願いします。

今後に向けての学校の考え

災害対策マニュアルを作成し、職員・学生への周知徹底を図るとともに、地域とも連携し、避難訓練などを継続的に実施検証してきます。また、今後も非常時の備品及び食品の整備に関しても地域と連携し整備に努めていきます。海外研修については、研修内容・場所等費用・安全を含め精査をし、多くの学生に参加をしていただける研修を、今後も実施していきます。国内研修旅行については学生に業界の最前線を体験させることで、この経験をもとに自覚と責任感を持たせて企業様への外部研修に生かせるよう継続して取り組んでまいります。

(7) 学生の受け入れ募集

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	自己評価	学校改善案	学校関係者評価委員のご意見
(7)- 1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	本校は(一社)愛知県専修学校各種学校連合会に加盟し、同団体に定める募集活動に関わる諸規則を尊重・遵守、適切な募集活動に努めている。体験入学(オープンキャンパス)を通して、本校の授業カリキュラムの一部を教員と在校生で実施している。また、検討者のニーズを的確に把握できるよう学校独自のアンケートを実施し、検討者が求める体験入学ができるよう日々改善している。	・交通手段の発達に伴い遠隔地から直接通学することも可能な時代なので北陸などの地域を新規募集エリアと考えてもよいのではないかと？
(7)- 2	学生募集活動において教育効果は正確につたえられているか	4	印刷物・Webサイト・ガイダンス等で本校の就職実績をはじめとした教育効果を開示している。また入学を検討している保護者に対しても説明会を実施し、本校の教育理念を理解していただいている。また、体験入学では、業界企業と連携した実践的な学びや質の高い教育イベントについて、学科別に検討者に伝えている。	・とても良い施策が実行されていると思います。
(7)- 3	学納金は妥当なものとなっているか	4	同業他校と比して相場であり、また提供する教育サービスとその成果に関しても、学費に見合うものと考えている。当面、学納金の変更は考えていない。	・特になし。

今後に向けての学校の考え

学生募集について、グループ校での共同PRなど、幅広い広報活動などを検討し、コスト削減を模索しています。また、留学生への情報発信にも力を入れていきます。外部から見てわかり易い伝え方、表現方法を検討し、実施してまいります。また通学可能な遠隔地も新規募集エリアとなり得るかどうか検証します。

(8) 財務

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

	評価項目	自己評価	学校改善案	学校関係者評価委員のご意見
(8)- 1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	専門学校を取り巻く募集環境は依然として厳しさを増しているが、見学者、在校生へのきめ細かな対応により学生数は増加傾向にあり、これを継続できるよう努める。 中長期的に安定した経営基盤を構築するために、経費削減を図る一方で、施設設備の充実並びに学務体制の強化を図り、バランスのとれた経営を行っている。	・特になし。
(8)- 2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	年度予算は中期計画と関連して立案されており、目的や目標を勘案し計画達成に向けたものになっている。予算の執行については毎月実績ベースと比較し、妥当に執行されるように確認しながら、行っている。	・予算、計画が有効であるかどうかの検証は十分にできていますか？
(8)- 3	財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	私立学校法の規定に基づき、監事により業務、財産状況の監査が行われており、会計年度終了後2ヶ月以内に理事会及び評議員会で決裁を受けている。	・特になし。
(8)- 4	財務情報公開の体制整備はできているか	3	財務諸表をホームページで公開している。	・ホームページでの公開以外に費用対効果を勘案すると思います。

今後に向けての学校の考え

近年、ほぼ予定通りの募集人員が確保できていることから、学校の財務状況は安定しており順調に推移していますが、学生活動による経費の増大など懸念される部分も多く、経費節減に努めながら健全な学校運営を目指してまいります。財務諸表の公開については、委員の皆様のご承認のもと、8月に情報更新を図ります。

(9) 法令等の遵守

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	自己評価	学校改善案	学校関係者評価委員のご意見
(9)- 1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	新制度や規則の制定、各種届出事項などの際に多角的にチェックし、法令等を遵守する体制を構築するとともに、運用が適切に行われているかを責任者間にて検証している。	・先回も申し上げましたが、麻薬が若年層に蔓延しています。
(9)- 2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	学校に必要な個人情報について、毎年の講師会において専任教員・兼務教員ともにそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めている。	・パソコンのデータベースへの外部からの侵入保護に対する対策はできているのか？・学生の安全を守るためにも、厳重な管理を徹底してください。・リスク管理の為、徹底したルール化と運用のための周知をお願いいたします。
(9)- 3	自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	定期的に確認を行うことで発見することも多数あり、その都度レベルの向上に努めている。	・特になし。
(9)- 4	自己評価結果を公開しているか	4	本校の「自己点検・自己評価報告書」は学園ホームページで毎年度公開している。	・特になし。

今後に向けての学校の考え

コンプライアンス重視の観点から個人情報の流出事故がないよう、職員一人一人の意識向上を目指すと共に、常に「報・連・相」の徹底と相互チェック等を行い、万全を期してまいります。学内のPCはサーバにて管理し、外部からのアクセスについてはファイアウォールを設ける等の対応により情報管理の強化を継続して行います。内部は学務ミーティングを通して職員に法令順守の啓発を行い、SNSの使用ルールを設けるなど継続的に対応してまいります。情報管理は取組精度が向上している認識ですので、個人レベルで情報取り扱いや管理徹底の啓蒙を継続努力致します。

(10) 社会貢献・地域貢献

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(10)- 1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	3	H28度は10月に学園4校合同学園祭を開催し、地域に学校を開放した。出展利益より、あしなが育英会に寄付。ペットビジネス学科では、NPO法人の動物愛護写真展名古屋会場、模擬ペットショップ・ドッグカフェ等、ビューティービジネス学科では、模擬エステ・ネイルサロン、ITビジネス学科ではゲームセンター、ファッションビジネス学科ではカフェ、総合ビジネス学科では模擬店などを実施し、地域の方々にもご来場いただいた。	・社会貢献については弱く、学校を超越した取り組み(例えばステークホルダーへの貸し出し)を検討したらどうか？・昨年の学園祭に参加をさせていただきました。当日は雨模様で、地域からの参加が少なかったのは残念でした。また準備なども大変でなかったかと心配もしました。 イベントの内容も盛り沢山で、時間があまりなく、すべてのイベントを見ることが出来なかったのも残念でした。・より社会・地域に貢献できるよう取り組んで頂きたい。・地域交流は学校をPRする最高の場だと思います。このような良い取り組みを今後も継続してください。・毎年継続の学校開放は評価できます。さらなる地域への広報の充実と、来場者満足度向上を期待しています。
(10)- 2 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	名古屋市動物愛護センターでのグルーミングボランティアやオレンジリボン啓蒙チラシ作成、老人施設でのドッグセラピーなど、学生の社会貢献・ボランティア活動は強化してきた。今後は全学科について、地域交流の機会を教育イベントのなかで増やし、地域イベントとのタイアップや学校単位での社会貢献活動を推進していきたい。	・栄東まちづくりの会のイベントにも、積極的に参加をしてもらえるような方法がないか、今後検討をしていただけたらと願っております。・学校全体でできることも模索して頂きたい。・全学科での今後の取り組みに期待します。・中日ビル解体に伴い、ビル壁面の壁画アートが取り壊される。中日ビルに保存は依頼しているが、学生ボランティアの協力を得て画像データとして残せないか。
(10)- 3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2	各種協会の一般向け講座会場として教室や実習室を提供したが、地域に対する公開講座等の受託を積極的に行っているとは言えない。本校主体の講座・教育訓練についても検討すべきである。	・受託等の積極的実施というよりは、自然に他から委託されるような情報開示が必要ではないか？・どんな内容の公開講座が開かれているのかが良くわかりません。せっかくペットビジネス学科もありますので、地域には、ペット愛好家を多くいますので、それらの方々を対象とした、ペットの管理のより良い手法とか、ペットマナーなどの相談コーナーなどの講座などは参加者も多いのではないかと推察いたします。・立地が活かせるので、ぜひ検討をお願いします。・色々な方が来校していただけるチャンスだと思いますので、ぜひ検討をお願いします。・本校が主体となり地域への公開講座実現に向け積極的な検討をして頂きたい。

「今後に向けての学校の考え」

社会貢献・地域貢献活動は、本校の教育方針の柱でもあり、これまでも様々な取り組みをしてきました。今後もさらに企業及び地域との連携強化を図り、計画段階から社会・地域の方々のニーズを取り込み、本校の分野において地域に役立つ活動の推進に努め、学生・職員の成長につなげてまいります。一部の学科に偏っているボランティア活動は学科間で情報共有を図り、他学科へ広げられるよう取り組みます。地域の景観や街並みを画像データとして残せないか等、出来る限り地域貢献をさせていただきます。

(11) 国際交流 (必要に応じて)

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	具体的な取り組み・学校改善案など	学校関係者評価委員のご意見
(11)- 1 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	3	H28度の留学生は中国5名、台湾1名、ベトナム1名が在籍していたが、3名が1年次で退学又は除籍した。 H28度は、7月「留学生交流会」に日本語学校の教員・学生の方々に参加いただいた。総合ビジネス学科には、留学生向けにグローバルビジネスコースを設置しており、留学生受け入れについては引き続き促進していく。	・改善案については評価できるが、戦略をもって行っているとは言い難い。・留学生の門戸を広げていくことは重要だと考えます。引き続き推進をお願いします。・留学生の受け入れ戦略はもちろん重要であるが、退学・除籍対策も強化お願いいたします。
(11)- 2 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	入学前の学生ビザ等の手続きについては広報担当者が、入学後は学務室で引き継いでいる。就職にあたっての就労ビザ申請等の手続きについては、留学生担当(就職指導担当者)が相談にのっていく。	・特になし。
(11)- 3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	留学生の受け入れにつき、職業教育機関である専門学校の役割は非常に大きいと認識している。在籍管理や学修・生活・就職指導についての体制整備に万全を期したい。また、名古屋外国人雇用センター、名古屋国際センターなど公的機関と連携しサポート体制の整備に努めていく。	・道半ばの感は有るが、着実に進捗している状況は評価できる。・学内の体制・サポート整備を推進してください。・留学生の受け入れ体制の整備は、選択される専門学校としての最重要課題だと感じます。
(11)- 4 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	3	学修成果が国内外で評価される取り組みは、まだ行われていない状況。今後、留学生の募集戦略を明確化して入学数を増やし、その留学生の卒業後の評価を上げることで、国外でも学修評価が高まるよう進めていきたい。また、途上国などの学校支援を含め、国際交流を中期計画に含めたい。 留学生が今後も増加傾向にあること、国際基準による評価が日本でも広がってきていることを考慮し、H27度よりGPA基準を導入、成績評価をS、A、B、C、Fとしている。	・現在進めている取り組みを具現化してもらいたい。・留学生の卒業後の動向を確認し、学校の成果として活かしてください。・学生の受け入れ拡大と評価への取り組みは必要であり、情勢に遅れを取らないように頂きたい。

今後に向けての学校の考え

日本のグローバル化への取り組みを本校でも今後重要視し、国際交流の視点から、本校における役割の検討を始めてまいります。留学生の受け入れでは募集戦略において、更に明確化いたします。また本校在学生との交流を通じて、異文化コミュニケーション力の向上につなげてまいります。卒業後の進路等に関しては関係機関など各方面との連携をより密接に行うことで国内就職に向けた支援体制の強化を図ります。また名古屋地区エリアマネージャーと連携し、今後更なる増加が見込まれる留学生の受け皿として日本語別科設立に向けた取り組みを推進して参ります。